

アプリで子どもを守る

あしたに ちゃれんじ

中川 悠

「私がALIT（外国語指導助手）として小学校に勤務している時、子どもたちが答えたいじめに関するアンケートが無造作に置かれているのを見てびっくりしたんです。いじめ・虐待などにつながる子どもの「SOS」を引き出す、小中学生・高校生対象のアプリ「kimino micata（キミノ ミカタ）」を立ち上げたケイトリン・プーザーさん(28)はこう話す。イギリスのリバプールで育ち、大学では犯罪心理学を学んだプーザーさんは、熊本の小学校で6年間、英語を教えた。「2019年に千葉県で

「ガーディアン」共同創業者 ケイトリン・プーザーさん(28)



タブレット端末でリアプリ「kimino micata」を示すケイトリン・プーザーさん（京都市左京区で撮影）

児童の虐待死がありました。あのニュースを見て、私ができることは何だろうと考えたんです」と振り返る。イギリスでは個人情報がかたがたに管理されている。では、日本の職員室は個人情報保護を徹底できているのか。もっと先生たちの仕事を軽減でき、子どもたちが答え

やすいアンケートはないだろうか。プーザーさんは、女性や若者を支援する団体「J-SIE」が熊本県内で開催したワークショップで、いじめや虐待を受けている子どもたちが本音を伝えられるアプリのアイデアを発表。最優秀賞に見事輝き、事業の後押しを受けた。22年からは起業人材を育成する会社「フエニクシー」（京都市）のバックアップを受け、熊本から京都に移った。株式会社「ガーディアン」（同市）を設立し、共同創業者・代表取締役として活躍している。このアプリは熊本市教育委員会に採用され、21年から3つの小学校で実証実験を重ね、有効性が認められた。教育現場で使用しているタブレット端末で使うことができ

る。子どもはアンケートで現在の心の状態を「幸せ」から「つらい」までの六つから選択。その他にも「食欲がない」「みんなから無視された」「お金や物をとられた」や「家族は汚れた服を洗濯してくれる」など、学年ごとに異なる問いを10〜20問、投げかける。回答結果の分析から、学校側には、いじめや虐待を受けているかの注意レベルが「赤」「オレンジ」「黄」で示される。細かく状況を書き込めるヘルプボタン、男性の先生には知られたくない話題を保健

室の先生にだけ伝えるボタンなどの配慮もある。父親も兄も警察官というプーザーさん。「私もいつか警察官になって子どもたちを守りたい」と思っていたのですが、ALITの経験を経て、このアプリで子どもたちを守る事が新しい夢になりました。

厚生労働省と警察庁が23年3月に発表した22年の小中学生・高校生の自殺者数は514人。これは、1980年からの調査で過去最多となった。学校、家庭の問題が原因・動機の多くを占める。熊本、そして京都からスタートした「子どものSOS」

に気付く仕組み。多くの学校に広がり、一人でも多くの悲しむ子どもたちを救ってほしい。………

なかがわ・はるか 1978年、兵庫県伊丹市生まれ。NPO法人チユラキューブ代表理事。情報誌編集の経験を生かし「編集」の発想で社会課題の解決策を探る「イシューキュレーター」と名乗る。福祉から、農業、漁業、伝統産業の支援など活動の幅を広げている。

あしたに
ちゃれんじ

次回は11月17日掲載予定